

健康維持・増進とケアを分野連携で多面的
に考える授業の提案
-日本人のケアを考える-

近畿大学
松山 賢治

ローマ神話における女神クーラ (cura; care) の役割

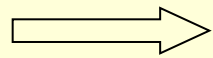


大地の女神 テラ (テルス)



女神 クーラ

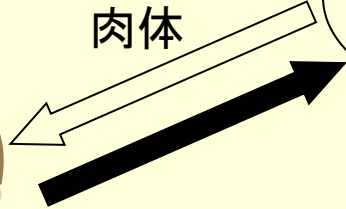
創造



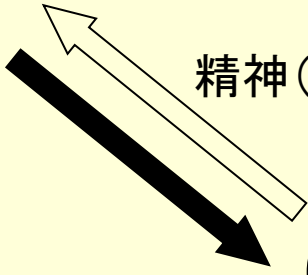
ケア



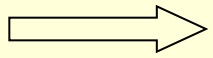
肉体



精神(魂)



ジュピター



誕生時



死亡時

人間は身体をテラから、精神をジュピターから借り受け、女神クーラにより創造された(誕生)。死に臨み、身体はテラに返し、魂はジュピターに返す。この間クーラは人間を支配し掌握するケアの責を負わされる。

教材1 表意文字の感じからケアの源流を考える

①意に添わない人や仕事を引き受けなければならぬ経験に付いて各自意見を言ってください

ヒトと人の違い(漢字の形から考える人)

→ 人と言う漢字は部首同志で互いに支え合っている

優の字の字体はどういう意味か?

→ 人を憂う

具体的な事象・行動を考えてみよう

光明皇后の悲田院を知っていますか?

②悲田院の意義を討論し、現代の悲田院は何かを考えてください

③Affirmative action(アファーマティブ・アクション)について考察せよ

教材1 ケアの源流を考える

ハイデガーはこのギリシャ神話、厳密にはローマ神話(寓話)を使って、現存在における気遣いの重要性、時間の優位性を説明しているのだ。ローマ的な契約の原理が印象的だが、前述したようにここには人間の相互性としての福祉、ケアの原理がある。

以下、田畑 邦治氏のサイトより。

http://secondlife.yahoo.co.jp/health/master/article/d102tkuni_00011.html

＜このハイデガーの言う「ゾルゲ」という言葉は、英語では最近よく耳にする「ケア」(care)と訳されていますが、古いラテン語では「クーラ」(cura)という言葉がこれに相当します。ちなみにこれは現代のキュアー(cure)の語源です。日本語では「憂い」とか「関心」「配慮」などと訳されています。＞

くさて、この思想を私たちの現代の生活や、介護福祉・医療の現場に置きかえて考えてみると、意外に明るい展望が開かれるのではないかと思います。もちろん関心・配慮に生きることはいつも明るいことばかりではありません。curaが「憂い」とも訳されているように、私たちはこの世界の中で日々さまざまなことに憂慮しています。①意に添わない人や仕事を引き受けなければならないとか、それだけでなくも人生の無理難題は果てることもないほどです。しかし、ハイデガーが言うように、②人間という存在者は、関心(ゾルゲ)のうちに自分の存在の「根源」を持っているのであり、生まれつき「憂い」の刻印を帯びているのです。(中略)高齢社会は「ヒト」から「人」への進化の時代だとも言われていますが、その②「人」が「他人の身」を「憂うる」者にまで成長するとき、「優しい人」すなわち人間的「善」が少しずつ実現されるのではないのでしょうか。「優しさ」という字は「人」を「憂うる」と書きますから。＞



動物

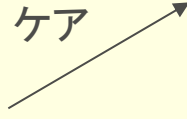
ケア



子供のケア

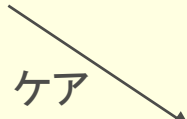
(誕生から
成長まで)

ケア



人間

ケア



老人のケア

(身体→テラ
魂→ジュピター)



動物は出産して子供のケアのみを行うが、人間は、子供のケアも老人のケアも両方行うことにより、万物の長として存在している。

日本における病人看護の源流としての悲田院、 施薬院の建立からケアを考える

④ 日本の患者看護ルーツは？

日本における病人や貧者のケアは光明皇后が設立した悲田院や施薬院にさかのぼる。これは赤十字よりも1000年以上早いもの。

Q: 悲田院と施薬院について調べて下さい

⑤

世界初の貧者を救う施設は何故、どういう思想背景で作られたのだろうか？

資料1

自分を皇后に推薦した藤原四兄弟とその死

- 藤原不比等：
父、藤原鎌足。母、車持与志古娘(くるまもちのよしこのいらつめ)(鏡王女とするのが定説である)。兄は僧侶の定恵(定慧とも。出家前の名は真人)。
- 妻：蘇我娍子
- 長男：武智麻呂(むちまろ)南家(680-737)
- 次男：房前(ふささき)北家(681-737)
- 三男：宇合(うまかい)式家(694-737)
- 妻：五百重娘(不比等の異母妹、天武天皇の夫人(ぶにん)だったが天皇の死後、不比等の妻となった)
- 四男：麻呂(まろ)京家(695-737)
- 妻：賀茂比売
- 長女：宮子(文武天皇夫人(ぶにん)、聖武天皇の母)(683?-754)
- 妻：県犬養三千代(橘三千代)
- 三女：光明子(安宿媛、藤三娘)(光明皇后、聖武天皇皇后)(701-760)
- この他
- 次女：長娥子(長屋王妾)
- 四女：多比能(橘諸兄室)(尊卑分脈によれば県犬養三千代の娘)
- 五女?：名前不明(大伴古慈斐室)の存在が『続日本紀』の記載より知られる

資料2

藤原4兄弟： 藤原武智麻呂(むちまろ)680年 - 737年 (藤原南家)
藤原房前(ふささき)681年 - 737年 (藤原北家)
藤原宇合(うまかい)694年? - 737年 (藤原式家)
藤原麻呂(まろ)695年 - 737年 (藤原京家)

- 藤原四子政権
- 律令編纂や平城遷都などに関わった不比等亡き後、元正天皇・聖武天皇の時代に渡る**長屋王との政権争い**に勝ち、729年から737年の間、朝廷の政治を担う。この時代を藤原四子政権とよばれる。
- 四子政権時代には律令財政が確立され、天平6年(734年)に官稻混合による正税が成立し、天平8年(736年)には公田地子の京進が開始された。また、京や畿内に惣管を、平城京以西の道ごとには鎮撫使が設置され、治安維持が強化される。対外的には遣唐使の派遣や節度使の設置、東北遠征などが行われた。
- **四兄弟は737年の天然痘の流行により相次いで病死**した。四兄弟の子が若かったため、実務は光明皇后(不比等の娘)の異父兄弟で臣籍降下した橘諸兄(葛城王)が担うことになった。この間、主立った実務官僚も次々に亡くなり、ついで、四兄弟のうち宇合の息子藤原広嗣が740年に乱を起こし、討伐されたため藤原氏の高位官僚の不在時代がしばらく続くことになる。

答：四人の兄達の病死 → 長屋王の崇り → 東大寺の建立と悲田院・施薬院の建立 → **福德思想により、崇りからの救いを求めたもの**

悲田院と光明皇后

- 1) 藤原家に恨みを抱く怨霊(長屋王)の慰撫
(怨霊信仰)
- 2) 貧窮病人を哀れみ供養すれば徳が得られる
(福德思想)

→ 悲田院の建設(723年～764年まで機能)
封戸4000戸の庸物が主な財源
(公的ケアの源流)

悲田院と光明皇后

- 悲田院(ひでんいん)は、仏教の慈悲の思想に基づき、貧しい人や孤児を救うために作られた施設。
- 聖徳太子が隋に倣い大阪の四天王寺に四箇院の一つとして建てられたのが日本での最初とする伝承があり、敬老の日の由来の俗説の一つである(四箇院とは悲田院に敬田院・施薬院・療病院を合せたものである)。中国では唐代に設置されたものが日本同様に社会福祉のはしりとして紹介される場合がある(収容型施設のはしりであることには間違いはない)。723年皇太子妃時代の光明皇后が設置したものが日本では記録上で最古のものである。平安時代には、平安京の東西二カ所に増設され、同じく光明皇后によって設立された施薬院の別院となってその管理下におかれた。

東大寺と聖武天皇

- 東大寺の起源は大仏造立よりやや古く、8世紀前半には大仏殿の東方、若草山麓に前身寺院が建てられていた。東大寺の記録である『東大寺要録』によれば、天平5年(733年)、若草山麓に創建された金鐘寺(または金鍾寺(こんしゅじ))が東大寺の起源であるとされる。一方、正史『続日本紀』によれば、神亀5年(728年)、第45代の天皇である聖武天皇と光明皇后が幼くして亡くなった皇子の菩提のため、若草山麓に「山坊」を設け、9人の僧を住まわせたことが知られ、これが金鐘寺の前身と見られる。金鐘寺には、8世紀半ばには繚索堂、千手堂が存在したことが記録から知られ、このうち繚索堂は現在の法華堂(=三月堂、本尊は不空繚索観音)を指すと見られる。天平13年(741年)には国分寺建立の詔(みことのり)が発せられ、これを受けて翌天平14年(742年)、金鐘寺は大和国の国分寺と定められ[2]、寺名は金光明寺と改められた。
- 大仏の鑄造が始まったのは天平19年(747年)で、この頃から「東大寺」の寺号が用いられるようになったと思われる。なお、東大寺建設のための役所である「造東大寺司」が史料に見えるのは天平20年(748年)が最初である。

光明皇后と施薬院

- 施薬院(せやくいん、もしくはやくいん)は、奈良時代に設置された庶民救済施設・令外官。「施」の字はなぜか読まれないことが多く、中世以降は主に「やくいん」と呼ばれた。
- 天平2年(730年)、光明皇后の発願により、悲田院とともに創設され、病人や孤児の保護・治療・施薬を行った。諸国から献上させた薬草を無料で貧民に施した。東大寺正倉院所蔵の人参や桂心などの薬草も供されている。また、光明皇后自ら病人の看護を行ったとの伝説も残る。
- 光明皇后崩御の後には知院事2名が置かれ、平安京へ遷都後も、施薬院は五条室町近くに移されて続行し、山城国乙訓郡に施薬院用の薬園が設けられた。天長2年(825年)には、別当、院使、判官、主典、医師の各1名を置く職制が定められ、延喜式でも継続された。

正倉院にある薬を調べてみよう。

- 蘭奢待：薬木、織田信長が切り取った跡があるから正倉院に行った際には歴史の痕跡として鑑賞してください。

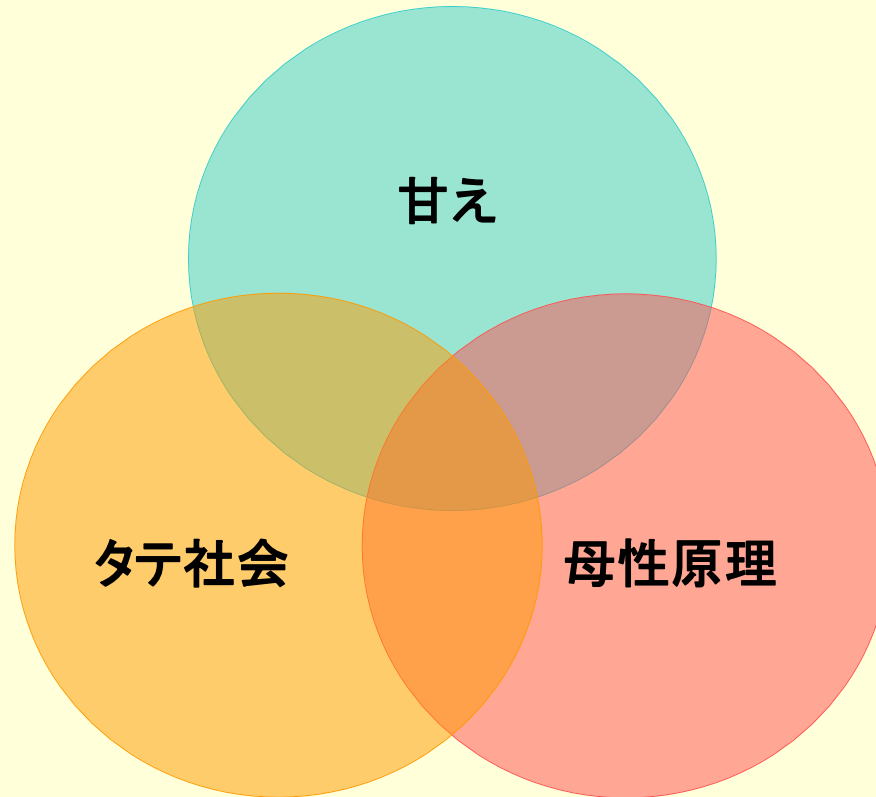


「蘭奢待」という名は、その文字の中に"東・大・寺"の名を隠した雅名

黄熟香という香木が蘭奢待の本名

教材4

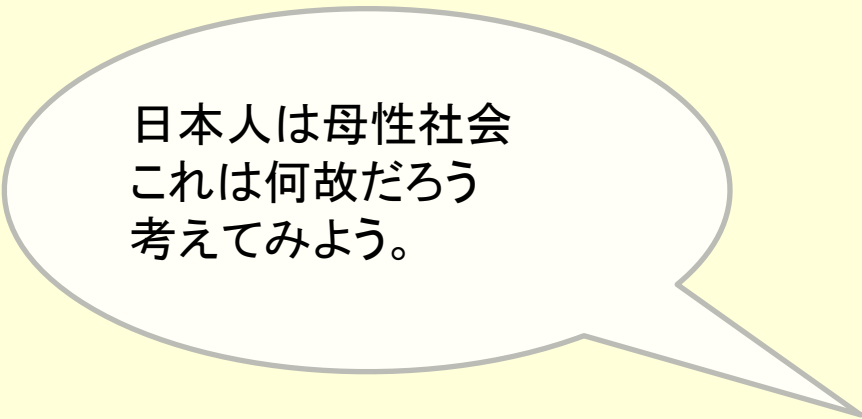
日本人のメンタリティーを決定付ける要因、母性社会



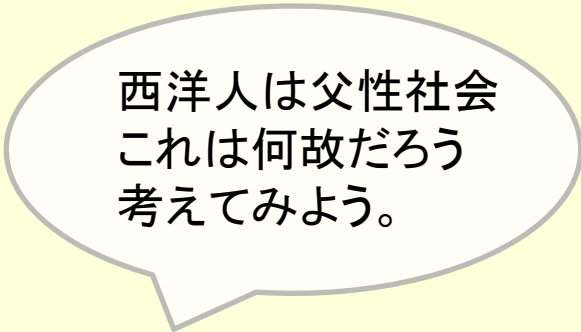
図書館で以下の書籍を借りて、読んでみよう

- ①甘 え 土居健郎著:甘えの構造(弘文堂1971年)
- ②タテ社会 中根千枝著:タテ社会の人間関係(講談社現代新書1967年)
- ③母性原理 河合隼雄著:子供と学校(岩波新書:1992年)

テーマ

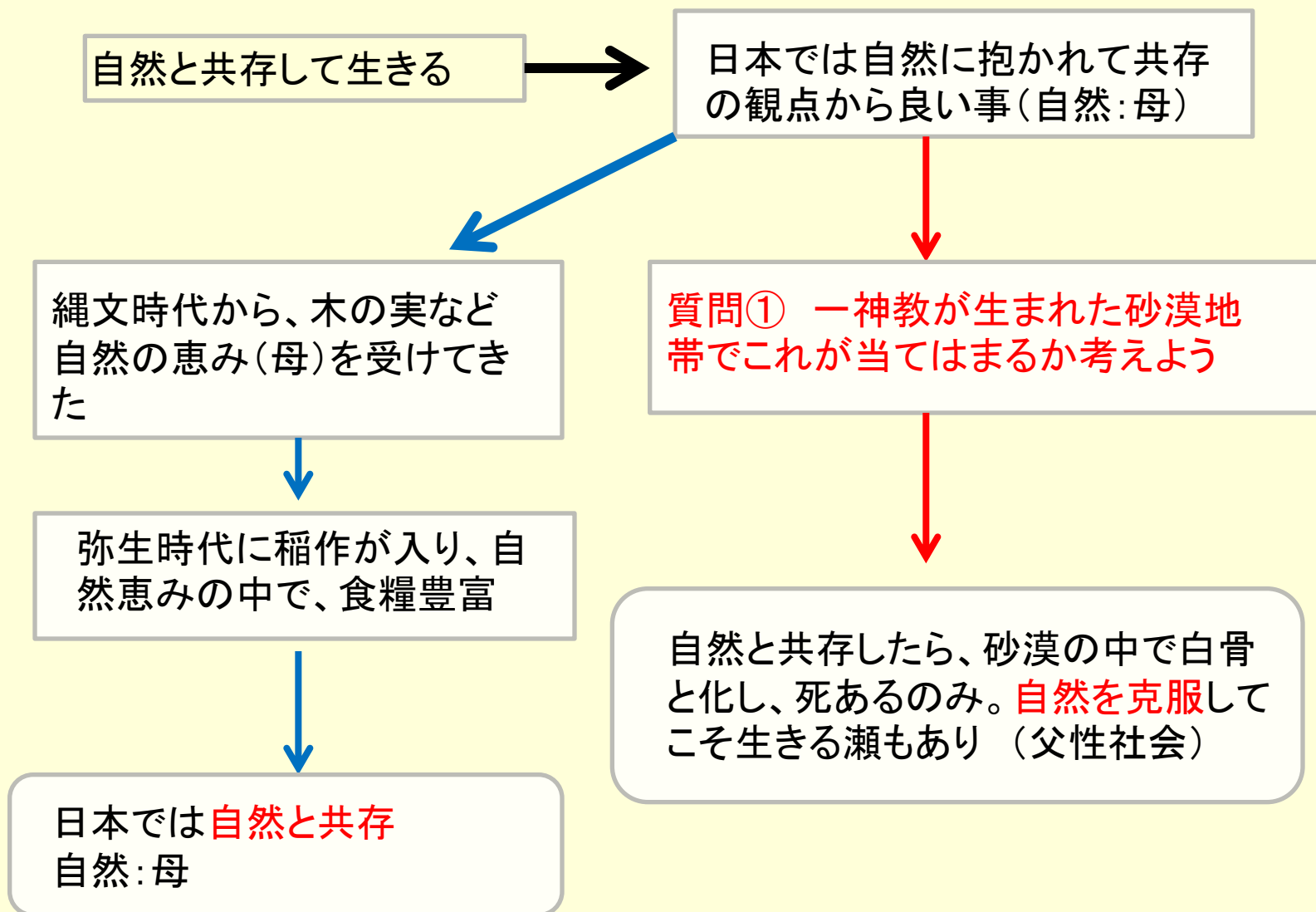


日本人は母性社会
これは何故だろう
考えてみよう。



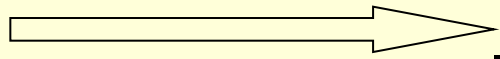
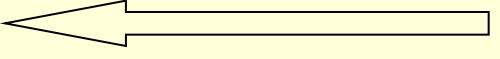
西洋人は父性社会
これは何故だろう
考えてみよう。

父性社会と母性社会を決めたものについて考えてみよう



	父性原理	母性原理
機能	切る	包む
目標	個人の確立	場への所属(おまかせ)
人間観	個人の成長	場への平衡状態の維持
	個人差の肯定 (能力差)	絶対的平等感
序列	機能的序列	一様序列性
人間関係	契約関係	一体感(共生感)
コミュニケーション	言語的	非言語的
変化	進歩による変化	再生による変化
責任	個人の責任	場の責任
長	指導者	調整役
時間	直線的	円環的

現代の日本社会の
パラダイムシフト



今後のケアの方向性

官刻孝義録(松平定信が林大学頭以下の学問所に命じて作成させた記録)

- 官刻孝義録(以下「孝義録」と記す)は、寛政元年(1789)の幕府の命を受けて、全国各地から提出された表彰事例を、幕府が整理し、享和元年(1801)に刊行したものである。
- これは全50巻からなり、飛騨国を除く全国の事例を網羅している。ここに登載された人数は8600余人にのぼり、そのうち787件、936人については表彰にいたった経緯を含めた略伝が付されている。最も古い例は、慶長7年(1602)のものであり、幕府が積極的に賞罰政策を取りはじめたといわれる天和(1680年代)以降は、連年表彰事例を数えることができ、さらに時代が下がるにつれてその数は増していく。

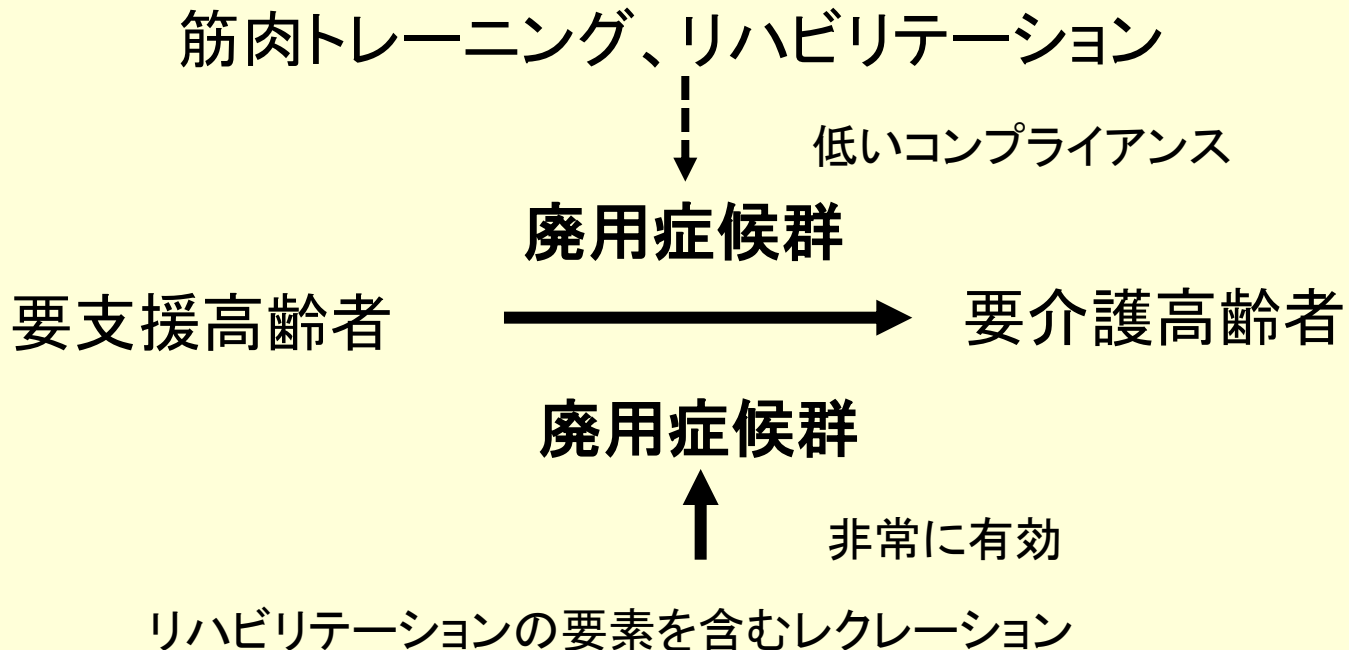
官刻孝義録に見る江戸時代のケア

孝義録には、病親を抱え懸命に世話をした息子・娘・嫁の事例が数多く収載されている。なけなしの日銭は全て老親の食事や衣類、薬にあて、自らは一枚きりの古衣をまとい、冬の夜は懐に親の足を抱いて暖め、夏の夜は団扇であおぎ・・・そのような事例が並ぶ中で特に目を引くのは、「足腰が弱って寝たきり、あるいは視力の衰えた親に、外で見聞きしてきたことを語って慰める」「祭りや神楽などがあれば、できるだけ連れ出して見物させる」「眠りに就くまで物語をする」といった記述の多さである。物理的な看病だけにはとどまらない、メンタルヘルスケアの源流とも言うべきものがある。

質問①

上の分から高齢者ケアのヒントとなる部分を述べよ。

孝義録にみる介護予防システム



答え

**「祭りや神楽などがあれば、
できるだけ連れ出して見物させる」**

要支援高齢者を要介護高齢者にしない為になすべきことは？

課題

課題①
廃用症候群とは何だろう？
レポートを書いてください。

課題②
筋トレがそれを防止できるだろうか？
楽しく体を動かすには
何があるだろう。皆で考えてみよう！

ヒント：官刻孝義録の中の「祭りや神楽などがあれば、できるだけ連れ出して見物させる」……レクレーションとケアについてについてSGL

官刻孝義録に見る江戸時代のケア

- 「百姓与右衛門の娘トメ」の項に、生まれつき「足たため」障害を持つトメが、障害者の身でありながら、当時の公的扶助にあたる「貧人養ふへき扶持米」を受ける当然の権利を拒み、その上で年老いた母親の世話まで行い殊勝である」との賛辞を送っている。
- ⑬ 日本におけるアフーマティブ・アクションの源流となる記述を述べよ

障害者に対する扶助は「当然」のものであるとする考えが、既に江戸時代の寛政年間に浸透していることで、わが国の障害者ケアの先進性を示している。

ご静聴ありがとうございました

近畿大学薬学部
松山 賢治